

『歴代寶案』校訂本第七冊の発刊に際して

沖縄県教育委員会教育長 嘉陽 正幸

沖縄と中国には、長い友好の歴史があります。一三七二年に、明国の初代の皇帝太祖の招きに応じて、琉球国中山王察度が進貢使節を送っております。

一五世紀から一六世紀にかけて、琉球国は、中国だけでなく、朝鮮国・東南アジア諸国との交易も行い、大琉球国時代といわれるように発展しました。島津侵入後は、諸国との交易は衰微し、専ら中国への進貢だけとなりました。日本国内市場のニーズに応えながら、中国の文物をもたらし、漆芸・陶芸・染織・学問などを学び、独自の沖縄文化を開花させました。

人材育成については、すでに一三九二年に官生(官費留学生)を中国へ派遣しております。当初、王の近親者や按司の子弟を留学させましたが、尚真王代から、久米村の子弟を留学させ、公文書の作成や通訳に備え、経済の発展だけでなく、人材育成にも意を用いました。南京(のちに北京)の国子監における官生は、中国当局から宿舍を与えられ、衣類や食料は、余裕のある現物給与で、他に学用品用として銀も給与され、好遇されました。官生の年限は、三年から七年といわれております。修業年限を終え、帰国した官生は、後代に国王の侍講や、琉球国の最高学府であった国学の講師を務め、後進を指導しました。

琉球国は、五世紀にわたり、技術的にも学問的にも先進国であった中国から、はかり知れない恩恵を蒙りました。明治初年以降、中国との公的な交流は、不幸な日中戦争をはさみ、中断しておりましたが、平成四年から五年にかけて第一回・第二回の琉球・中国交渉史に関するシンポジウムを那覇市と北京市で開催いたしました。これは、歴史的な出来事であり、まことに意義深いことでもあります。中国当局の御協力に対し、厚く感謝を申し上げます。

沖縄県教育委員会は、平成元(一九八九)年度以来、歴代宝案を編集すべく、歴代宝案編集委員会を設置し、鋭意努力をつづけてまいりました。このたび、関係各位の労苦がみのり、校訂本第七冊を発刊する運びとなりました。ここに関係各位に対し、心から敬意と感謝を捧げる

とともに、全五十巻という膨大な編纂事業を、予定通り編集してまいりたいと考えております。

県民のみなさま方におかれましても、歴代宝案編纂事業に、なお一層の御理解を寄せられ、御協力を賜りますようお願い申し上げます、発刊の御挨拶といたします。

平成六（一九九四）年二月